

# 宮城県議会震災記録誌

～東日本大震災発災から3年間の宮城県議会のあゆみ～



宮城県議会

平成27年3月

## 発刊に寄せて



宮城県議会議長 安藤 俊威

東日本大震災において我が県を襲った大地震と大津波は、かけがえのない多数の尊い命と財産を奪い、未曾有の甚大な被害をもたらしました。

発災から4年が過ぎ、徐々に復興の歩みが加速していますが、解決すべき課題はまだまだ山積しております。

この4年という歳月は、私たち宮城県民の心に忘れられない深い悲しみを刻む一方で、発災から現在に至るさまざまな場面で感じた「あの時こうすればよかった」という思いを風化させつつあります。

私は、千年に一度という未曾有の災害を最も間近で体験した県議会として、その経験と当時感じた思いを後生に伝えていく責務があるとかねてより考えておりました。そのためには、発災からの議会活動を詳細に記録し、その活動を検証した上で、今後予想される新たな災害に向けた準備を行うことが必要です。

このことから、私は、平成25年12月に議長に就任した後、議会改革推進会議に対し大規模災害時における議会のあり方の検討と記録誌の作成を求めました。以後9ヶ月にわたり熱心に検討いただき、平成26年11月に報告を受けました。

記録誌では、発災から3年間の議会活動及び議員活動について記載したほか、その活動について検証を行い、5つの提言がなされております。この提言をもとに県議会における災害時の対応マニュアルの検討が始まっておりますが、その上でも貴重な資料となるものであると考えております。

今後とも、宮城県議会は、未曾有の大震災から復興を成し遂げ、さらに発展していくために総力を結集して取り組んでいく所存であります。

最後になりましたが、これまで物心両面にわたり多大なるご支援を賜った国内外の皆様にあらためて感謝を申し上げますとともに、この記録誌が全国の議会における災害対応の一助となれば幸いに存じます。

## ふるさと宮城の再生に向けて



宮城県議会副議長 渥美 巖

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から4年が経過しました。

平成23年3月11日、産業経済委員会が終了し会派控室に戻った直後に、あの大地震が発生しました。平成15年7月の宮城県北部連続地震を体験していましたので、少しは落ち着いて行動できましたが、県内で大きな被害が起きていると直感し車で帰路につきました。仙台市内では渋滞が始まり、救急車や消防車がサイレンを鳴らしながら走り、道路は陥没しているところもありました。三陸自動車道は通行止めとなっており、ラジオからは津波情報が流れていました。内陸を通る県道仙台松島線を通って地元東松島市に入りましたが、普段の帰路である国道45号線は既に浸水し通行できない水位になっていました。

東松島市役所の災害対策本部に駆けつけましたが、余震や津波の続く状況の中、市役所職員が自らの危険を顧みず情報収集にあたり、それを受けて本部長である市長が消防団・警察等の協力を得てご遺体の収容・避難者の受け入れなど懸命の対応を行っており、私もそれに協力しました。

翌日見た市内の津波被災地域は、戦争で爆撃を受けたかと思うほど悲惨な状況でした。

その後は、毎日行われる東松島市災害対策本部会議に百日間欠かさず出席し、市内の被災状況、ライフラインの復旧状況、遺体収容・行方不明者の捜索状況、国・県の動向等の報告を受け、県との調整などを行いました。また、震災直後に県議会が設置した特別委員会で、県内の被害を調査するとともに、現地のニーズを取りまとめ、県や国に対する要請・要望活動を行いました。

国の手厚い補助金や国内外からの多くのご支援、県民一丸となった取り組みにより、被災地域は徐々にではありますが復興への兆しが見えてきました。しかしながら今なお、多くの方々が仮設住宅等での不自由な生活を余儀なくされており、災害公営住宅建設を初め、まちづくりや産業基盤の整備など、本格的な復興のための取り組みはいまだ道半ばです。国の復興集中期間（平成23年度～27年度）の延長とともに、継続した財政措置が不可欠ですので、県議会としても引き続き強力に国に要望してまいります。

最後になりましたが、二元代表制の一翼を担う宮城県議会は、常に県民サイドに立ち、県民のニーズをもとに、さまざまな形で政策提言を行い、議会としての役割をしっかりと果たしていくことが、ふるさとの復興を加速し、宮城の再生につながりますので、今後とも全力を傾注してまいりたいと思います。

# 宮城県議会 震災記録誌 目次

## 第1章 東日本大震災の概要

### 第1節 災害の概要

- 1 地震の発生状況 5
- 2 津波の発生状況 5
- 3 余震の発生状況 6

### 第2節 被害の概要

- 1 被害の特徴 7
- 2 被害の概要 7

### ○「あの日から」

〔**島山和純** 元議長 (H21.7~H23.11) / 大震災復旧・復興対策調査特別委員会委員長 (H24.11~)〕 9

## 第2章 初動対応及び活動記録

### 第1節 発災直後の議会の対応

- 1 議会〔2月定例会, 地震発生, 屋外での本会議開催, 3月15日の本会議開催までの動き, 3月15日の本会議等〕 10
- 2 議会事務局〔発災当日, 本会議開催まで, 県災害対策本部設置に伴う対応〕 12

### ○「当時は振り返って」〔**中村功** 前議長 (H23.11~H25.12)〕

14

### 第2節 応急期・復旧期における活動記録

- 1 本会議の状況
  - (1) 平成23年〔5月定例会, 8月臨時会, 9月定例会, 11月定例会〕 15
  - (2) 平成24年〔2月定例会, 5月臨時会, 6月定例会, 9月定例会, 11月定例会〕 19
  - (3) 平成25年〔2月定例会, 6月定例会, 9月定例会, 10月臨時会, 11月定例会〕 22
  - (4) 平成26年〔1月臨時会, 2月定例会〕 26
- 2 特別委員会の活動
  - (1) 平成23年大震災対策調査特別委員会 (平成23年3月から同年11月まで) 28
  - (2) 大震災復旧・復興対策調査特別委員会 (平成23年12月から平成24年11月まで) 31
  - (3) 大震災復旧・復興対策調査特別委員会 (平成24年11月まで) 34
- 3 常任委員会の活動
  - (1) 総務企画委員会 37
  - (2) 環境生活委員会 (環境生活農林水産委員会) 39
  - (3) 保健福祉委員会 41
  - (4) 産業経済委員会 (経済商工観光委員会) 43
  - (5) 建設企業委員会 45
  - (6) 文教警察委員会 46
- 4 要望(要請)活動 48

### ○「素早い救援の関西広域連合とカウンターパート方式」

51

〔**小野隆** 元副議長 (H21.7~H23.11) / 前大震災復旧・復興対策調査特別委員会委員長 (H23.12~H24.11)〕

### 第3節 各議員の活動状況

- 1 発災直後 52
- 2 応急・復旧期
  - (1) 応急期 (発災から概ね半年間) 53
  - (2) 復旧期 (発災から概ね半年から3年間) 53

<b>第4節 他団体との連携</b>	
1 議長会	
(1) 北海道・東北六県議会議長会	54
(2) 全国都道府県議会議長会等	54
2 市町村議会	
(1) 宮城県市議会議長会・宮城県町村議会議長会（県内各市町村議会）	57
(2) 仙台市議会との正副議長懇話会	58
3 民間団体からの請願・陳情	59

○「天災は忘れずにやってきた！」〔佐々木征治 前副議長（H23. 11～H25. 12）〕	62
---	----

<b>第5節 他議会等からの支援等</b>	63
-----------------------	----

<b>第6節 県議会議員選挙の実施</b>	64
-----------------------	----

○「当時を振り返って」〔相沢光哉 元平成23年大震災対策調査特別委員会委員長（H23. 3～H23. 11）〕	65
---	----

### 第3章 震災対応の検証及び提言

<b>第1節 検証</b>	
1 検証の目的と方法	66
2 検証項目	
(1) 議会運営	67
(2) 大震災に係る特別委員会の活動	72
(3) 常任委員会の活動	74
(4) 要望活動	75
(5) 復興に県議会が果たした役割	76
(6) 議員活動	77

<b>第2節 提言</b>	
提言1	78
提言2	79
提言3	80
提言4	81
提言5	82

#### 《参考資料》

○大震災に係る特別委員会設置の経緯及び名簿	83
○大震災に係る特別委員会設置要綱等	85
○要望（要請）書	88
○決議（震災に係る主なもの）	138
○意見書（震災に係る主なもの）	141
○震災に係る議員アンケート結果概要	160
○「大規模地震発生時の県議会の対応について」	165
○議員名簿	166